

「新しい東北」官民連携推進協議会
令和3年度 岩手県意見交換会（第3回）議事概要

令和4年3月16日
「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

【日 時】令和4年3月16日（水）15:00～17:00

【場 所】復興庁岩手復興局 ／ オンライン

【出席者】（敬称略）

＜課題に挑戦している企業・団体＞（所属の五十音順）

岩手働き方改革推進支援センター

有限会社宝来館

＜副代表団体＞（所属の五十音順）

株式会社岩手銀行

岩手県

国立大学法人岩手大学

特定非営利活動法人いわて連携復興センター

＜復興庁＞

復興庁 復興知見班

復興庁 岩手復興局

＜事務局＞

PwC コンサルティング合同会社

【議事概要】

1 開会

1.1 復興庁の挨拶

- 実践の場への参加に係る御礼に加え、本意見交換会で忌憚のないご意見をいただくよう復興庁より挨拶した。

2 各団体の活動紹介

2.1 いわて連携復興センター

- 資料2を用いて、3月11日に開催された東北六県ROLLフォーラムについて説明した。

3 実践の場の開催結果

3.1 資料1を用いて事務局より説明した。

4 年間の取組を通じて導出したノウハウ

4.1 資料1を用いて事務局より説明した。

5 次年度の協議会・意見交換会

5.1 資料1を用いて事務局より説明した。

6 意見交換

6.1 実践の場の開催結果について

（主なご意見）

- 今回意見交換会・実践の場を開催いただいたことに感謝申し上げる。釜石全体の動きを伝えるための関係者とのコミュニケーションには不足があり、関係者との連携がもっと必要だった。
- 今年度は釜石市全体を対象にした取組を発表したが、鵜住居・根浜に限定した発表にした方が地域内外の皆さんに分かりやすかったのではないかと思う。

- ・ 来期は釜石市の中でも特定の地域での取組が、どれ程進んでいるか見せる場にしたいと思う。ノウハウとして示されているスマールステップを積んでいくプロセスを踏んでいきたい。
- ・ コロナ禍で発信が難しくなった中で、発信の機会が得られたことはよかったです。規模が小さくてもよいので、こうしたイベントを開催できるとよい。
- ・ 実践の場に向けては、より早い段階で関係者を巻き込んで、目的を共有する進め方が必要だと感じる。関係者にとってどのようなメリットがあるかも共有することが必要であると地域の方と会話している中で感じた。
- ・ 地域の中の人の話を聞けるのはよい機会であると思う。人口減少など三陸地域が抱える課題は金融機関や行政だけの力では解決が難しい。関係人口・交流人口や観光といった切り口がテーマになると思う。三陸道が開通しているが、使いやすい二次交通など、行政を巻き込んだ取組を行うとよいのではないか。
- ・ 仙台からのシャトルバスの整備が進んでいるが利用者が少ないと聞く。目的地のコンテンツの拡充がされないと来訪者数が伸びない、あるいは再訪に繋がらない。2次交通の整備は、目的地となる取組とセットで進めることができるとよいのではないか。
- ・ 釜石で活動している団体の方をより多く取り込みながら、当事者の目線で語られていたのがよかったです。次年度は他地域へ広められたらよいのではないか。また「新しい東北」の岩手県の関係団体が関わりを持てるといいのではないか。
- ・ 関係人口・交流人口の流れがなければ地域の観光が廃れてしまう。地域のコンテンツの拡充・関係人口の交流促進を目指し、はまなすプロジェクトや英國式レスキューにも取り組んできた。
- ・ 被災から復興に向けた地域の状況が知れるよい機会となった。サークルの学生などこうした活動に興味を持つ学生も多いので、早めに周知することで参加できるようにしていただきたい。
- ・ 登壇者が活発に意見交換されていてよかったです。大学としては被災地にある教育機関として学生に実習などを通じて震災について学んでいただき、岩手の将来を考えてももらう機会をつくる取組を行っている。鶴住居町、釜石市、岩手県沿岸部と取組を広げた場合、どういった学びがあるのかアピールできる、スローガンのようなものがあるとよい。大学ではシラバスといった学べることの概要がわかるものを用意している。こうした学生にも興味が湧くようなテーマ設定・アプローチ方法・学べる内容・参画を通じた学生の成長を提示していく必要があると思う。
- ・ 今年の3月11日には県内の学生から自主的に何か手伝えないかと声掛けをいただいた。学生たちにも声をかけていきたいと思う。
- ・ 岩手県では岩手復興未来塾を年に数回実施し発信の場を設けている。今回の取組も広く発信できる形になればよいと思う。可能であれば当日の録画を確認できるとよい。協議会のYoutubeチャンネルで発信していくことも一案である。

6.2 年間の取組を通じて導出したノウハウについて

(主なご意見)

- ・ 自分たちではノウハウとして気づけないことが多い。今回の取組の成果をしっかりと出していくことに注力し、次の世代に繋いで行くことが大切だと考えている。
- ・ ノウハウについて、受け手・タイミングによって異なるのではないか。誰に対するノウハウなのか示すべき。ノウハウを作ると構えずに、事例を分かりやすく発信していくことが重要だと考える。
- ・ ノウハウを他の地域の方が見た際に、どういった取組があったのか背景・事例を提示しなければ読み手に伝わらないのではないか。
- ・ 復興庁では、東日本大震災からの復興の過程における取組事例を基に復興の教訓・知見を取りまとめた「教訓・ノウハウ集」を作成している。釜石での取組は、復興庁の教訓復興継承事業でとりまとめている知見事例集における「協働と継承」分野の詳細版といった意

味合いで位置づけられると考える。今年度思うようにできなかつたことや苦労した部分があるはずであり、それこそが重要な示唆である。「こうしたらよい」という理想形でなく、そうできなかつた背景も含め、取組における難しい点がノウハウとして整理されるとよいのではないか。

- 非常にたくさん情報を持てもらつたが、合意形成が間に合わなかつたこともあります、実践の場ではそれが全て伝えられるというところまでは至らなかつた。来期も実践の場で成果を発信していきたい。
- いずれの関係者も釜石に対する強い想いは同じだが、完全な一枚岩というわけではなく、ミクロなレベルで方向性に違いはある。ただし、大きなベクトルは同じ方向を向いているので、力を合わせられないのはもったいない。
- どのような切り口で、誰を中心にして進めるかといったことも検討しなければならない。
- 強い意志を持った方が中心になるとよいと思う。加えてコーディネーターの役割を担う方がいることが釜石の一つの魅力である。震災直後からも、釜援隊など「おせっかいを焼いてくれる人」がたくさんいる。そういう側面を活動に盛り込むことができればよいのではないか。

6.3 次年度の協議会・意見交換会について

(主なご意見)

- 次年度も同じテーマで取組を深掘りできればよいのではないか。
- 複数地域で取り組めば地域の連携も図れるのではないか。
- 他の地域でも同様に実践ができるとよいのではないか。また今年度以上に協議会のメンバーとして積極的に取り組めるとよいと思う。
- テーマについては同じものに取り組むとよいのではないか。対象地域については可能であれば広げたい。
- 複数年をかけて同じテーマを追うことがよいのではないか。対象地域を広げることについてはメリットとデメリットを比べながら議論して決めたい。
- 今年の活動開始が遅れたため、消化不良があったと思う。引き続き同じテーマで取り組めればよいと思う。規模感については複数地域に広げられるかも検討のポイントである。
- 複数地域での取組は難しい部分が多いと思う。
- 同じ場所で継続して取り組むことに異存はない。次年度はノウハウを広く発信することに注力しなければ、関係人口・交流人口へ広がらないと思う。
- 次年度も継続して取り上げていただくのはありがたい。今回の取組は、地域の課題を一緒に考えて整理していただけることや、関係人口・交流人口の広がりに繋がると思い参画した。次年度は関係者との合意も含めスケジュールをしっかり計画し、他の地域の方にも参考になる発信ができればと考える。
- 活動人口・関係人口へ取組への具体的な関わり方や役割を示す発信が必要であると思う。実践の場を考えると、関わる方への期待を整理して巻き込むことが重要である。
- 実践の場のような発信は一度きりになる傾向にあるため、継続的な取組となるよう設計したい。
- 今年度は過去に繋がりがあった方との繋ぎ直しという観点もあったが、今後の拡大を考えると若年層をターゲットにしていくことも考慮したい。
- 被災地の沿岸部では共通の課題を抱えている、釜石で取り組む内容・成果が他地域でも役に立つと考えている。

7 閉会

7.1 本日の決定事項

- 今年度進めてきた取組について、次年度も継続していく方向性で、次年度の意見交換会にて取組テーマを議論することとした。

以上